



平成 17 年 10 月 31 日

各 位

会社名 タカラバイオ株式会社
(コード番号 4974 東証マザーズ)
本社所在地 滋賀県大津市瀬田三丁目 4 番 1 号
代表者 代表取締役社長 加藤 郁之進
問合せ先 常務取締役 木村 睦
TEL (077) 543-7235
URL <http://www.takara-bio.co.jp/>
親会社等の名称 宝ホールディングス株式会社
代表者 代表取締役社長 大宮 久
(コード番号 2531 東証、大証第 1 部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 17 年 5 月 13 日の決算発表時に公表し、平成 17 年 7 月 1 日のク
ロンテック事業買収発表時にこれを修正した平成 18 年 3 月期(平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月
31 日)の中間期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期 中間業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 9 月 30 日)

(1) 連結

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	中間純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	6,750	600	600
今回修正予想(B)	6,465	845	862
増減額(B-A)	284	245	262
増減率(%)	4.2	-	-
前期実績(平成 16 年 9 月期)	6,373	930	654

(2) 個別

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	中間純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	6,100	540	550
今回修正予想(B)	5,953	791	901
増減額(B-A)	146	251	351
増減率(%)	2.4	-	-
前期実績(平成 16 年 9 月期)	5,920	838	546

2. 平成 18 年 3 月期 業績予想数値の修正 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(1) 連結

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	17,500	50	0
今回修正予想(B)	17,500	900	900
増減額(B-A)	-	950	900
増減率(%)	-	-	-
前期実績(平成 17 年 3 月期)	13,685	1,042	1,282

(2) 個別

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	14,500	60	30
今回修正予想(B)	14,500	650	800
増減額(B-A)	-	710	830
増減率(%)	-	-	-
前期実績(平成 17 年 3 月期)	12,836	795	1,074

3. 修正の理由

当中間期の売上高は 6,465 百万円で、前期比 92 百万円(+1.4%)の増収となるものの、計画比 284 百万円(4.2%)の未達となる見込みとなりました。主たる原因は、遺伝子工学研究分野の売上高が、前期比 159 百万(2.9%)の減収、計画比 364 百万円(6.4%)の未達となる見込みとなったことにあります。なかでも当分野の主要品目である研究用試薬・受託において新製品・新メニューの投入が計画に対して遅れたことから、売上高が計画比 555 百万円の未達(前期比 224 百万円の増収)にとどまったことが影響いたしました。他の事業分野については、遺伝子医療分野の売上高がほぼ前期並み、計画どおりとなり、医食品バイオ分野の売上高が前期比 252 百万円(+30.9%)の増収、計画比 78 百万円(+7.9%)の増加と好調に推移いたしております。なお四半期毎の売上高は、第 1 四半期は前期比 150 百万円の減収となりましたが、第 2 四半期では 242 百万円の増収を達成できた見込みであります。

一方利益面では、相対的に利益率の高い遺伝子工学研究分野の売上が減少し、利益率のやや低い医食品バイオ分野が増加したことから、売上総利益は前期比 18 百万円(+0.7%)と微増にとどまり、計画比では 425 百万円(13.3%)の未達となる見込みであります。販売費及び一般管理費は前期比 6 百万円、計画比 128 百万円のそれぞれ減少となり、営業外損益を差し引いた経常利益は 845 百万円の損失と、前期比 85 百万円の改善となるものの、計画比では 245 百万円の未達となる見込みであります。

通期業績に関しましては、当期に買収いたしましたクロンテック事業の売上高が下半期に寄与してまいりますことから、同事業の買収と同時に上方修正した売上高 175 億円(前期比 3,814 百万円の増収、+27.9%)を達成できるものと見込んでおります。事業分野別では、遺伝子工学研究分野の売上高は前期比 2,768 百万円(+23.3%)の増収は確保できるものの、計画比では中間期未達の影響が大きく 105 百万円(0.7%)の未達となる見込みであります。遺伝子医療分野はほぼ計画どおりに推移し、医食品バイオ分野の売上高は、前期比 1,037 百万円(+60.7%)の増収、計画比 110 百万円(+4.2%)の増加となる見込みであります。

利益面では、売上総利益が前期比 1,408 百万円(+22.1%)の増益となりますが、計画比では事業分野による利益率の違いから 706 百万円(8.3%)の未達となる見込みであります。販売費及び一般管理費が前期比 1,351 百万円(+18.1%)の増加(内、研究開発費 449 百万円)計画比 285 百万円(+3.3%)の増加(内、販売促進費・広告宣伝費 127 百万円)となることから、営業外損益を差し引いた経常利益では前期比 142 百万円の増益となるものの、計画比は 950 百万円の未達となる見込みであります。なお、クロンテック事業の初年度(4ヶ月間)損益は当初収支均衡と見ておりましたが、米国の企業買収会計によるたな卸資産の時価評価差額の償却に伴う原価増等約 4 億円の影響を受け 242 百万円の経常損失となる見込みであります。当期利益は前期比 382 百万円の増益となるものの、計画比では 900 百万円の未達となる見込みであります。

以上のことから、誠に遺憾ながら中間期の売上高・利益予想及び通期の利益予想を下方修正せざるを得ない状況に至ったものであります。

(注)業績予想につきましては、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであります。従いまして、今後発生する状況の変化によっては、実際の業績はこれらの数値と異なる場合があります。